

令和4年度 第1学期始業式 校長式辞（令和4年4月8日）

皆さん、希望に満ちた、令和4年度を迎えられたことと思います。

第1学期の始業式にあたり、皆さんとともに考えてみたいことがあります。それは、本校の教育方針である「自重互敬」についてです。本当に深い言葉で、考えさせられます。

岡山市に本部を置く、AMD Aは、多国籍医師団を編成し、国際的に被災地に派遣、緊急医療救援を行っていることは皆さんもよく知っていることと思います。国内では、2011年3月に発生した東日本大震災の緊急医療支援活動から、復興支援活動まで行ってきたのですが、直近では、ウクライナに医療チームを派遣していることが報道されました。

その代表は菅波代表ですが、この代表とAMD A本部で話をしたり、まとまった話を聞いたりする機会に恵まれました。

意外だったのは、国際支援に慣れているだろうと思っていたこの組織にも、実は、支援よりも、まず地元民に受け入れてもらう、ただそのことに大変な苦労がある、ということです。そのため、AMD Aが肝に銘じている大原則があるというのですが、皆さん、何だと思いませんか？

答えは、「援助を受ける側にもプライドがある」ということです。これを肝に銘じておくのだとことです。「少しでもお役に立ちたい」という謙虚さが必要なのだと言われました。

だから、こう言うのだそうです。「いずれ日本も南海トラフ大地震が発生し、その時は、今度は皆さんに助けていただかねばならないのです」と。

彼らは、こんな努力をして、サハリン大地震、ルワンダ内戦、ハイチ大地震等、数々の大変な状況の異国に入って行ったのだ、と私自身初めて知りました。

この話は、本校の「自重互敬」という言葉に重なります。お互いに敬愛する姿勢が大切なのだということです。否応なくグローバル社会に生きる皆さんには、改めて本校の「自重互敬」をしっかりと身につけてもらいたいと思います。

すぐに、大きくこの精神を発揮することはできなくても、毎日ちょっとした「互敬」を行うのが、挨拶ではないでしょうか。私は、挨拶は「する」も

のではなく、「交わす」ものだと考えています。ことさら大きな声を出さずとも、相手には聞こえるように、「おはよう」に「おはよう」で、「ありがとう」に対して「どういたしまして」、横断歩道で停まってくれる車がいれば、心の中で「ありがとうございます」と会釈をしながら少し急いで渡る。

こんな当たり前のことができない大人がなんと多いことでしょうか。岡山県は横断歩道で停まる車が少ない、と言えます。しかし、情けないことですが、裏を返せば停まってもらったときに、感謝の意を示さない人が多いと言えらるのではないのでしょうか。皆さんも、「互敬」を具体的な場面で考えてみてもらいたいと思います。

さて、この1学期も十分なコロナウィルス感染症対策が必要な状況が続きます。しっかり予防をしていたのなら、いたし方ありません。しかし、マスクをせずに会話していた、手指消毒などを怠った、換気を決められた時にしなかった、などの場合には、言い訳はできません。

全員が一丸となって、できれば学級閉鎖や部活動停止などを極力少なくし、授業、学校行事や部活動を充実して1学期を過ごし、終業式を迎えたいと心から願っています。

(岡山県立岡山朝日高等学校 校長 平田善久)